

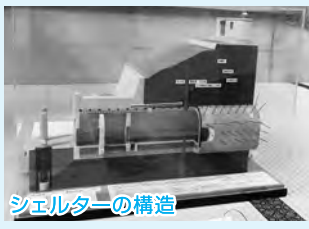


災害は特別なことではなく、いつも日常の隣にある —「2025防災学習会」を開催—

1日目 室戸ユネスコ世界ジオパーク「環境・防災学習プログラム」



室戸市都呂津波避難シェルター入口にて



シェルターの構造



室戸世界ジオパークセンター/
室戸岬の大地の成り立ちについて学ぶ



シェルター内部
エビピラフなどの
非常食を保存



フィールドワーク/
避難タワー見学

2日目 黒潮町・防災ツーリズム「防災学習プログラム」



黒潮町土佐西南大規模公園/
座学「防災対応」



安政津波の碑



連合鳥取は、9月12日(金)・13日(土)、「2025防災学習会」を開催しました。連合鳥取役職員14人(うち女性7人・女性参画率50%)が、南海トラフ地震が今後30年以内に発生する確率が80%程度と予測されている高知県を訪問し、現状を踏まえた現地の防災対策を学びました。

高知県は、最大クラスの南海トラフ地震(マグニチュード9.0)が発生した場合、県内のほとんどで震度6弱〜7の強い揺れが予想され、津波についても予想の沿岸市町村で10m以上が想定されており、黒潮町は全国最大の34mの津波が予想されています。

今回訪問した室戸市・黒潮町で解説いただいた防災対策の基本的な考え方は「自然を克服し、抗うのではなく、自然とうまく付き合う作法を身につけよう」ということです。

①いつ起こるか分からない地震を365日24時間身構えて警戒し続けるのではなく、普段は日常的に自然の恵みを受け暮らしながらも、時には牙をむく自然のふるまいも自然本来の営みの一部だと理解しておく、②「防波堤があるから」「ハザードマップの外だから」大丈夫ではなく、一人

ひとりがいざという時、その場所ですべてを尽くすことができるようにしておく、③「自然はいつも想定外」その心構えがあつて初めて知識や訓練が活きる、などの事柄を学びました。

1日目

室戸市都呂津波避難シェルター、室戸世界ジオパークセンター、室戸岬訪問

斜面を駆け上ることが困難な高齢者が逃げ込めるよう設置された日本唯一のトンネル型シェルターや、室戸特有の地質・地形について学びました。

2日目

黒潮町土佐西南大規模公園、入野の浜、安政津波の碑、避難タワー訪問

全国最大の津波襲来が予想される黒潮町が策定している「地震・津波と日本一うまくつきあうための防災計画」や防災に関する取り組みを学びました。

Checkしよう!

鳥取県の最低賃金は
令和7年10月4日から

1030 円

この金額を下回る場合は
違法ぞこぞん!

JR連合JR西労組

亀山 泰孝さん(連合鳥取執行委員)

今回の防災学習は、今後30年以内に起こりうるといわれる南海トラフ巨大地震に直面する高知県の二つの市町を訪問した。

二つの市町に共通して特に印象的だったことは、地震は周期的に起こる自然現象であり不可避であること、一方で私達はその豊かな自然からの恵みをいっばいに受けて生きていることを受け入れている姿だった。悲観的にならず、自然の恵みと災いの二面性を理解したうえで、「自分の命は自分で守る」姿勢が印象的だった。

今回学んだことを今後の活動にしっかりと活かしていきたい。

参加者の声

10月4日から鳥取県の地域別最低賃金は

連合鳥取「セーフティネットワーク集会」を実施

9月22日(月)、連合鳥取は2025年度の「セーフティネットワーク集会」をFDK株式会社鳥取工場で開催し、執行委員会役員を中心に17人が参加しました。

初めに、山口一樹会長があいさつを行い、FDK株式会社の成瀬 悟事業部長からあいさつと会社概要説明をいただきました。

その後、2班に分かれて工場見学を行い、最後にFDK株式会社の「安全への取り組み」「安全衛生委員会の取り組み」などの意見交換を行いました。

続いて、研修会として鳥取労働局労働基準部健康安全課の片山竜次地方産業安全専門官から「高年齢労働者の安全と健康確保のためのガイドライン」(エイジフレンドリーガイドライン)について説明・解説をしていただきました。

最後に、北畑仁史副会長が、工場見学および研修のまとめとしてあいさつを行い、セーフティネットワーク集会を終了しました。



FDK(株)成瀬事業部長による
会社概要説明の様子



鳥取労働局 片山地方産業安全専門官の
講演の様子



連合鳥取2026年度政策・制度要求について 鳥取県と「担当部局交渉」を実施

8月12日(火)に山口一樹会長から平井伸治鳥取県知事に手交した「連合鳥取2026年度政策・制度要求【22項目60点】」のそれぞれの項目について、9月1日(月)、8日(月)の2日にわたって各担当部局と部局交渉を実施しました。

連合鳥取参加者から各要求項目について具体的な事象も交えて説明し、理解と対応を求めました。

今後、10月上旬に鳥取県から書面による回答が届く予定となっています。



対応部局	要求項目
輝く鳥取創造本部	▶ 外国人労働者が安心して働くことのできる環境の整備 ▶ 持続可能で安心・安全な社会資本整備の推進 ▶ 持続的な食料システムの実現に向けた取り組み
男女協働未来創造本部	▶ 公契約条例の制定による公契約の適正化 ▶ あらゆる差別・ハラスメントの根絶とジェンダー平等の実現 ▶ ジェンダー平等の視点に立った社会制度・慣行の見直し
総務部	▶ 公契約条例の制定による公契約の適正化 ▶ 良質な雇用・就業機会の実現に向けた対応 ▶ 私立高等学校の振興と教育環境の整備 ▶ あらゆる差別・ハラスメントの根絶とジェンダー平等の実現
危機管理部	▶ 切れ目のない医療を提供する体制の確立 ▶ 総合的な防災・減災対策の充実 ▶ インクルーシブな社会の実現に向けた取り組み
地域社会振興部	▶ 持続可能で安心・安全な社会資本整備の推進 ▶ あらゆる差別・ハラスメントの根絶とジェンダー平等の実現 ▶ 地方議会の活性化と国民の権利保障に資する投票環境の整備
福祉保健部	▶ 生活困窮者自立支援体制の確立と子どもの貧困対策、生活保護の運営体制の改善・充実 ▶ 切れ目のない医療を提供する体制の確立 ▶ 利用者のニーズに応じた介護サービスの安定的な提供と介護人材の処遇改善 ▶ インクルーシブな社会の実現に向けた取り組み ▶ 教育の機会均等の保障と学校の働き方改革を通じた質の向上
子ども家庭部	▶ 子ども・子育て支援新制度の着実な実施と、すべての子どもが心身ともに健やかに育つための環境整備、子どもの人権の擁護 ▶ 持続的な食料システムの実現に向けた取り組み
生活環境部	▶ 外国人労働者が安心して働くことのできる環境の整備 ▶ 生活困窮者自立支援体制の確立と子どもの貧困対策、生活保護の運営体制の改善・充実 ▶ GXと「公正な移行」の具体化に向けた地域における取り組み ▶ 持続的な食料システムの実現に向けた取り組み ▶ あらゆる差別・ハラスメントの根絶とジェンダー平等の実現
商工労働部	▶ 取引の適正化の実現に向けた取り組み ▶ 公契約条例の制定による公契約の適正化 ▶ 地域における高齢者の就労促進 ▶ インクルーシブな社会の実現に向けた取り組み ▶ あらゆる差別・ハラスメントの根絶とジェンダー平等の実現 ▶ 中小企業が自立できる基盤を確立 ▶ 外国人労働者が安心して働くことのできる環境の整備 ▶ 真にセーフティネット機能を果たすことができる法定最低賃金制度の確立 ▶ GXと「公正な移行」の具体化に向けた地域における取り組み
農林水産部	▶ 持続的な食料システムの実現に向けた取り組み
会計管理部	▶ 公契約条例の制定による公契約の適正化
教育委員会	▶ 働く者のための働き方改革に向けた体制強化 ▶ 教育の機会均等の保障、働き方改革を通じた質の向上 ▶ 良質な雇用・就業機会の実現に向けた対応 ▶ 私立高等学校の振興と教育環境の整備
県議会事務局	▶ 地方議会の活性化と国民の権利保障に資する投票環境の整備

東部地協発

「2025自然環境保全活動」鳥取砂丘ボランティア除草を実施

8月31日(日)、東部地域協議会「2025自然環境保全活動」として、鳥取砂丘の除草作業を行いました。

早朝から76人のみなさんにご参加いただき、湖山実議長代行のあいさつの後、鳥取砂丘事務局の方の案内で作業場所へ移動し、約1時間の作業でしたが多くの草を取ることができました。

広大な砂丘全体から見ればわずかな範囲ではありますが、こうした活動を多くのボランティア団体が継続的に行うことで「美しい鳥取砂丘」が守られています。東部地協も微力ながらこの活動を継続することで、その一端を担えればと願っております。今回ご参加いただいたみなさんに感謝申し上げます。



蒸し暑い中の除草作業の様子



青年委員会発

生成AI入門「学習会」に44人参加

青年委員会は9月20日(土)、中部教育会館(倉吉市)において、株式会社ダブルノット代表取締役の高林 努さんを講師に迎え、「中小企業で働く人のための生成AI入門」と題した学習会を開催しました。

技術の発展により、生成AIは仕事だけにとどまらずプライベートでも活用されるようになり、私達にとって身近な存在となっています。生成AIは的確な指示書の作成や自らでしっかり確認をすることにより、仕事のパフォーマンスを向上させることができるツールであるという考えのもと、実際の使用例や扱う情報に対する注意点を交えながら、仕事活用術を詳しく説明していただきました。



梶川大輔青年委員長あいさつ

質疑応答では、プライベートでの生成AIの使い方など、仕事だけでなく日常生活での活用に関する質問が多くあり、有意義な学びの場となりました。

今後も青年委員会では各産別のみなさんに興味を持っていただける企画を進めていきますのでご参加をお願いいたします。

(寄稿:青年委員会 幹事 上蘭 和真さん)



写真上/講師 高林代表取締役



UAゼンセン「北朝鮮拉致被害者家族支援学習会・街頭署名活動」に参加

9月7日(日)、UAゼンセン鳥取県支部主催による「北朝鮮拉致問題学習会」がセントパレス倉吉で開催され、27人(UAゼンセン17人・連合鳥取執行委員他10人)が参加しました。

講演では、特定失踪者問題調査会の村尾建児幹事長より、今も全国で871人に上る特定失踪者がいる現状や、北朝鮮による拉致は強制誘拐だけでなく、就職あっせんや趣味の勧誘など巧みで多岐にわたっていることなどが解説されました。

また、拉致被害者の松本京子さんの兄の松本孟さんからは、突然行方不明になった当時の様子や現在の政府の取り組み状況などについて貴重なお話を伺うことができました。

学習会後に予定されていた街頭署名活動は、天候の急変により中止となりました。



松本孟さん(左)と村尾幹事長

■ 平和特集 (フォトニュース) ■

平和行動 in 根室 【9月6日~7日:2人参加】

9月6日(土)～7日(日)、「2025平和行動in根室」が開催され、連合鳥取から山口一樹会長と山下浩二副事務局長が参加しました。

6日はA・B・Cコースに分かれて北方四島学習会が行われ、私たちはCコースの学習会に参加しました。

7日は納沙布岬・望郷の岬公園で「2025平和ノサップ集会」が行われ、全国から約653人が参加しました。集会の前段には、連合中国ブロック各県からの参加者で「竹島の領土確立・北方領土返還！」運動の一環としてチラシ配布を行いました。



平和ノサップ集会会場にて

「竹島の領土確立・北方領土返還！」
チラシ配布

Information

※詳しくは、**連合鳥取事務局**へお問い合わせください。

連合鳥取「第33回定期大会」

■日時 2025年11月20日(木)13時開会

■場 所 ハワイアロハホール・大ホール

■議事

▶ 報告事項

- ①2025年度一般活動報告
- ②2025年度会計決算報告
- ③2025年度会計監査報告
- ④2025年度剰余金処分(案)

► 議案

- ①第1号議案
連合鳥取規約・規則の一部改定(案)について
- ②第2号議案
2026・2027年度運動方針(案)について
- ③第3号議案
2026年度予算(案)について
- ④第4号議案 役員選挙
- ⑤第5号議案 その他

※産別を通じて案内しています

“ザ・議員”

さ か ね ま さ よ
坂根 政代 鳥取市議会議員

9月議会はコロナ感染のため一般質問ができませんでしたので、予定していた質問の内容を紹介します。

「男女共同参画社会の実現」のために「ジェンダー平等・ジェンダー格差解消」の施策を具体化すべきということでした。

鳥取市の男女共同参画意識調査をみると、30代までの若い世代男性でも「女性が職業を持ち家庭生活との両立を図る」ことには賛成ですが、育児、介護、家事は相変わらず女性が担ってほしいという考え方が表れていました。この考え方が、女性の夢や希望をしぼませ、地元に根付かない理由の一つになっているにもかかわらず。

女性は男性の賃金の7割程度、政治への参画、女性役員の少なさ等などジェンダー格差解消への具体的施策・戦略を打ち出す必要があるのではないのでしょうか。



東部地協ピースウォークに参加
一番右が坂根議員(2025.7.28)

お お も り え い い ち
大 森 英 一 伯耆町議会議員

今年5月に開かれた連合鳥取西部地域協議会主催の「推薦議員団会議(意見交換会)」で、連合鳥取と自治体(市町村)間の仲介をしたいと申し上げました。

7月24日(木)午後、J R西労組米子支部の浅井浩二執行委員長、野村香織副執行委員長、飯塚暁書記長の3人と小澤敦彦伯耆町長との面会が叶い、私も同席させていただきました。①労働組合が地方行政と協働できることはないか、②社会(地域)貢献として何ができるか、をテーマに意見交換ができました。

地域交通の中核的な役割として、伯備線の利便性アップなどについて語る町長に、「労使交渉の機会をとらえ伝えてみたい」といったやりとりに立ち会わせていただき、労働組合と行政の関係の深化に可能性を感じました。



一番右が大森議員

浅井執行委員長(左から3番目)から小澤伯耆町長(左から2番目)に要望書を手交

先日、防災学習会のため高知県を訪れた。南海トラフ地震のリスクが高い地域だけに、住民の防災意識は非常に高く、避難訓練やハザードマップの整備も徹底されていた。地元の方が語る過去の津波の記憶には重みがあり、「備えることは生きること」という言葉が胸に残った。防災は特別なことではなく、日々の暮らしの延長線上にあるのだと実感した▼防災思想の基本は「避難放棄者を出さない」。

そのために、地域では「あきらめない」「揺れたら逃げる」「より早く、より安全なところへ」という言葉が共有されている▼地形や歴史を踏まえた避難経路の確認、地域資源を活かした対応策など、実践的な学びが多く、住民の真剣な姿勢に触れる中で、これまでの自分の防災への向き合い方を見直すきっかけを得た。まずは自宅周辺の地形や避難経路を調べ、家族と「揺れたらどうするか」を話し合うことから始めたい。



(A
E
R
A)

てんじんくらむ



再生紙を使用しています